

# うみっこ通信

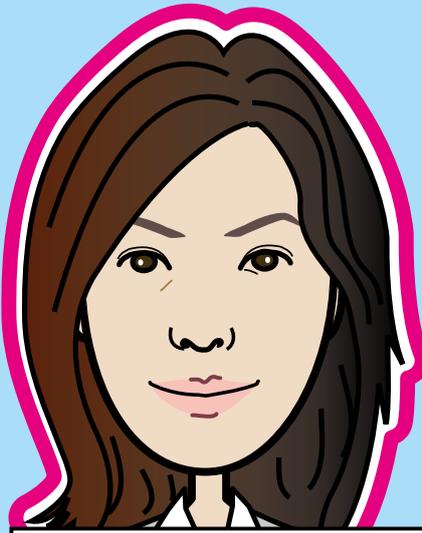


滋賀県立  
琵琶湖博物館

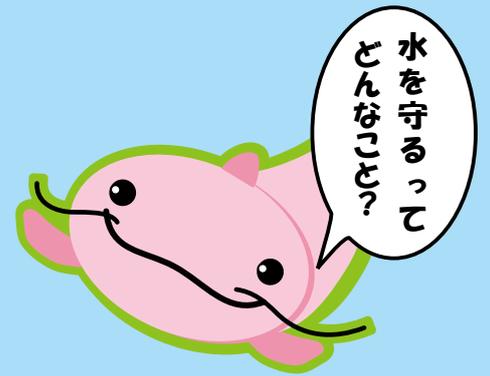
LAKE BIWA MUSEUM



教えてください



よう へい 学芸員  
楊 平



水を守るって  
どんなこと?



水のめぐみ

## 水との「つながり」と ちえ 生活の知恵

2016.3  
No.15

私たちは、暮らしの中で水の使い方をどのように変えてきたのでしょうか。

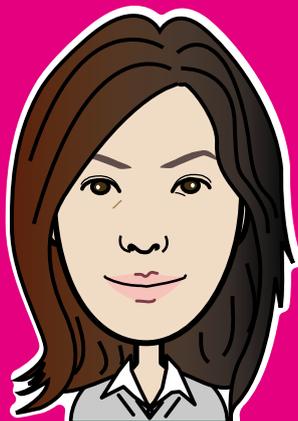
かつて、琵琶湖のまわりでは、わき水や雨水などの天然の水を使い、川では、魚つかみや水遊びができる場所がありました。現在でも昔ながらの方法で、天然の水を使っている場所があります。そこでは、今も水との「つながり」を大切にしている人々の生活の知恵や水文化が息づいています。

琵琶湖博物館の常設展示では、水にまつわる暮らしのさまざまな伝統や文化を展示しています。ぜひご覧ください。

また、平成28年7月14日にオープン予定のリニューアル展示の様子もお知らせします。

### 目次

- 1 今回の特集
- 2 豊かな水環境って、どんなもの?
- 3 生活の知恵と工夫
- 4 うみっこトピックス  
「展示をリニューアルしている様子」



「水」は人の暮らしに大切なものです

# 【研究紹介】 豊かな水環境って、 どんなもの？



【写真1】琵琶湖博物館C展示室の「カバタ」



【写真2】「カバタ」の復元展示



【写真3】地蔵川を流れるきれいな水



【写真4】水路で魚つかみ

## ① 生活の中でわき水は、何に使っているの？

「カバタ」と呼ばれるところで、飲み水や炊事に使っています。水道がなかった頃は生活用水として、とても重要な水源でした。また、このカバタは、人びとのにぎわいの場でもありました。

## ② こい 鯉が水をきれいに保つ？ たも

「カバタ」の中で鯉が暮らしています。「カバタ」の水で、食器に残っていた残飯を洗うと、鯉が残飯を食べてくれ、水が汚れるのを防いでいます。きれいになった「カバタ」の水は集落のなかの小川を通して琵琶湖に流れていきます。

## ③ きれいな水が流れている川に、何があるの？

写真は、米原市醒井にある地蔵川です。きれいな水が流れている地蔵川には、「梅花藻（バイカモ）」と呼ばれるキンポウゲ科の水草が生い茂ってしています。地元の人々は、きれいな水と梅花藻を大切に守っています。

## ④ 暮らしを支える水は、生き物にとってどうなの？

きれいな水を必要とするのは、人間だけではなく、川や水路の中をのぞくと魚類や水生昆虫、貝類など様々な生き物がすんでいます。きれいな水を好む生き物やよごれた水にすむ生き物など場所によって種類が異なります。水中にすむ生き物の種類を手がかりに、水の汚れを知ることができます。

きれいな水は  
キラキラだね！



# 生活の 知恵と工夫

水車には大切な  
役割があります。



【写真5】常夜灯と水車

## 昔と今の水車は、 何に使っているの？

昔は、流れる水のエネルギーを利用して、精米や粉をひくための動力に使って  
いました。今では、水車の動力を電気エネルギーに変え常夜灯に使っている  
ところもあります。また水車のある水の空間は、集落の景観として味わいのある  
風景にもなっています。

## 大切な水を守るために、 どうすればいいの？

地域の生活を支えるわき水をいつまでもきれいな状態で使えるように、定期的  
な清掃活動を行ってきました。現在でも「みんなが使う大切なわき水」という  
思いをもって、保全されています。



【写真6】わき水が流れる水路の  
定期的な清掃

## 琵琶湖を守るため、 かつて起こした行動は？

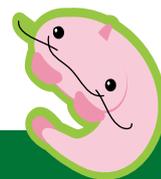
40年ほど前、赤潮が発生し、湖から変なにおいがするなど水質悪化が問題に  
なりました。当時、地元の女性たちは、合成洗剤が湖に影響を及ぼしていると  
考え、琵琶湖の水を守るために行動を起こしました。この出来事を「石けん運  
動」といいます。琵琶湖を大切にする「心」は、今も多くの人々に引きつがれ  
ています。

## 未来につなぐ水の恵み、 今私たちに できることは？

琵琶湖のまわりでは、古くから水と人のかかわりの中で暮らしの知恵や水文化  
が育まれてきました。琵琶湖の豊かな恵みを未来に引きついでいくために、  
私たちの暮らしの中にさまざまな「ヒント」や「知恵」が秘められています。  
ぜひ見つけてみましょう。



【写真7】水を通してみんなとつながっ  
ていく



# うみっこ トピックス

新琵琶湖博物館創造室 主幹 藤田 和也

## 展示をリニューアルしている様子



C展示室：工事の現況

琵琶湖博物館が開館して20年が経ち、これまでの研究から新たに発見したこと、わかったことを、わかりやすく伝えるため、平成32年までの5年間、3回(期)に分けて、展示や交流空間のリニューアルを行います。

1期目は、「琵琶湖とその周辺の環境や人々の暮らし」を展示したC展示室と「<sup>たんすい</sup>淡水の生き物」を紹介する水族展示の<sup>しょうかい</sup>リニューアル工事を進めています。現在C展示室では、以前あった展示物の移動と解体工事が完了し、水族展示では、<sup>すいぞう</sup>水槽内の魚の移動と水抜きをしたのち、水槽の中を新しく模様替えをしています。

今回、新しい展示の一部を紹介します。C展示室では、ヨシ原の中に入ったときの世界が体感できるヨシのトンネルやヨシズ<sup>あ</sup>編みの体験コーナー、カワウのはく製を使って実際のカワウの重さが体感できる展示ができます。また、琵琶湖周辺に生息するミミズ、カエル、カメなどの生き物を、実物標本として展示する空間もあります。

水族展示では、世界最古の湖であるロシアのバイカル湖の生き物を紹介。世界で唯一淡水に生息するバイカルアザラシを展示します。また、カメラを使って、目では見ることができない小さな生き物を大映像で紹介するマイクロアクアリウムもお目見えします。普段目にするこのない小さな生き物の不思議さとその価値を発信したいと考えています。

いよいよ、今年の夏7月14日にリニューアルオープンします。生まれ変わる琵琶湖博物館にぜひ<sup>お</sup>越しください。お待ちしております。



水族展示(カトリヤナ)：  
リニューアル後イメージ



水族展示(バイカルアザラシ)：  
リニューアル後イメージ